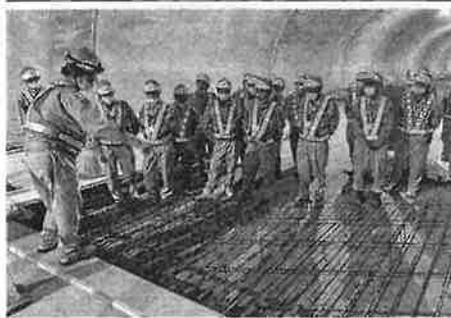


## 若手職員がICT施工見学

### 大林道路二遠道3号トンネルで



大林道路は11月15日、愛知県内で進めているトンネル舗装工事の現場でICT施工見学会を開いた。写真。本年度に入社した技術職員50人のうち28人（うち女性2人）が現場を訪れ、ICTを活用した上層路盤工の施工の様子を見学。B

IM/CIMやトータルソリューションを使った出来形管理なども体験した。

訪れたのは「令和4年度三遠道路3号トンネル東栄地区舗装工事」の現場。中部地方整備局が発注し、中部支店が受注した。2025年度の開通を目指す鳳来峡IC〜東栄IC区間にある、延長3569mの3号トンネル（仮称）のコンクリート舗装などを行う。工事概要は連続RC舗装工8020平方m、管（函）渠型側溝1418m、歩車道境界ブロック720mなど。

この工事では、測量と出来形管理に地上型レーザースキャナー（TLS）、不

陸整正・上層路盤施工時にマシンコントロール（MC）モーターグレーダーを活用。また、BIM/CIM活用工事（受注者希望型）だったことから、同社がCIMモデルを作成し舗装工事での活用方法を検討するとともに、CIMモデルを活用した4D工程表を発注者と共有している。

当日は工事の目的や施工手順等の説明を受けた後、連続RC舗装やスリップフォーム工法、ICTを活用した舗装工など、トンネル内でどのように作業が進められているか見学。参加者からは「3D化されたモデルを実感し、完成時のイメージが具体的に理解できた」「ICTは計測作業の迅速化、データ集計の時間短縮など業務の効率化にも役立つと感じた」などの感想が聞かれた。